

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年5月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4695200016
法人名	医療法人 玉昌会
事業所名	しあわせの杜・ケアレジデンス 木もれ日
所在地	鹿児島県姶良市加治木町反土2156番地1 (電話) 0995-62-5915
自己評価作成日	平成25年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www kaigokouhyou jp/kaigosip/Top do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年5月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの法人には、加治木温泉病院、高田病院のリハビリと人工透析を中心とした療養型の病院があります。それぞれの病院は、患者様の尊厳や権利を大切にし、また地域および医療・福祉施設との連携を図り、入院から在宅への一貫した医療・介護を提供しております。

病院以外には法人の在宅サービス事業所として、当グループホーム（認知症対応型共同生活介護）、認知症対応型通所介護、小規模多機能ホーム、居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションなど様々な介護サービス事業所があり、医療と介護のシームレスな関係を構築しております。当事業所では、利用者様一人一人にあつたケアプランを作成し、個別の対応に努めています。また介護支援専門員の資格者も増え、職員それぞれが自己研鑽にも努めています。

医療面に関しては、加治木温泉病院と24時間体制で連携をとっているため、利用者様が安心して暮らすことができ、ご家族様も安心してお預けできる環境となっております。同敷地にグループホーム、小規模多機能ホーム、住宅型有料老人ホーム、その他介護サービス事業所があることで、各サービスについて見学・相談しやすい環境になっております。

地域のボランティアの方々との交流も盛んになり、利用者様皆さまのQOL向上に繋がっております。法人として地域に根ざした病院・事業所になるよう日々取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 法人の敷地内には、当ホームの他に有料老人ホーム及び小規模多機能ホーム等があり、医療と福祉の総合的な事業所群として地域に周知されている。毎月ボランティアによるイベントが開催され、地域との交流や連携を大切にしている。

- 医療機関を母体とする法人で、当ホームをはじめ各事業所は、医療面で24時間連携体制がとれており、利用者及び家族の安心に繋がっている。

- 中学校に隣接した立地で、当ホームの中からも子供達の元気な声が聞こえ、日常的に子供達の様子を見聞きすることで、利用者の心身の安定にいい影響を与えている。

- 法人内の研修体制や働きやすい環境が整備されており、資格取得を含めた質の向上につながっている。法人としての事業の歴史があり、人事管理体制も確立している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の理念「いつまでも健やかに…私たちの願いです」行動指針として「低・賞・感・微」を事業所内に掲示するとともに、朝礼においても復唱してスタッフ一同で理念の共有を行っている。法人理念とは別に、地域密着型サービス事業所として独自の理念を掲げている。	法人の理念を基に地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を作成している。事務所内に掲示し、朝のミーティングで唱和して確認を行い、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月隣接の地域交流センターにボランティアの方が来られ、利用者はそのイベントに参加し交流を図っている。	ホームとして自治会に加入し、ホームで開催した研修会に地域住民が参加したり、幼稚園児やボランティアの来訪等、地域との交流が普段から図られている。また、高校生の実習受け入れも実施されている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議や家族会などを通じ認知症の方の理解や支援について話し合う機会を設けている。職員に対しても認知症についての勉強会等も実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催できており、小規模多機能ホームと合同で実施し、運営状況や行事内容を報告。委員の方々からの意見や提案をいただき、職員へ伝えサービスの改善・向上に努めている。	運営推進会議は、家族代表や行政・自治会長・民生委員等の委員で構成され、ホームの現状報告や利用者の状況・外部評価結果報告・その時々のテーマに沿った意見交換を実施している。近隣での火災以後、地域との防災協力について活発な意見交換をし、運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故報告や認定手続きなど市町村担当者と連絡を取っている。運営推進会議でも市職員の方に状況等の説明を行っている。	市担当者とは、日常的に事務手続きや状況相談・困難事例の相談等、連携を取っている。運営会議にも参加があり、連携は密に取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、スタッフ全員が身体拘束ゼロに努めている。母体の病院で開催される身体拘束の研修会や事業所内での研修にて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所で研修会を行い身体拘束廃止についての具体的行為を正しく理解し、マニュアルもある。玄関及び同一敷地内の2施設に繋がっている出入り口も自由に開放している。言葉使いにも配慮し、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修会に参加。同法人からの情報やメディアの情報等から知り得た事例を、職員全員への注意喚起や指導等行っている。			
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	倫理、擁護権利に関する研修会に参加し、職員全員に周知させ利用者様の対応について勉強する機会がある。			
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や同意書をいただく際は十分に時間をかけて説明を行い、利用者や家族が理解・納得した上で行っている。また改定の際にも利用者、ご家族へ説明し同意した上で契約を頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会を設けご家族からの意見を業務改善に活かしている。またアンケートによる満足度調査を行っている。アンケートを集計・分析し、結果はそれぞれの家族に書面で配布している。	家族会や面会時だけでなく、懇親会を実施し、話しやすい雰囲気の中で要望等の把握に努めている。外部に表せることも説明している。法人で実施している満足度調査で、メールでの連絡を希望する意見があり、早速実施するなど運営に反映させていく。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝のミーティングで職員から意見を聞く機会を設けている。法人内でも毎月1回、在宅事業所の管理者が集り、各事業所の報告を行なながら運営に関する意見や提案を行う機会が設けられている。月1回の事業所ミーティングを開くようにし、スタッフからの意見や提案事項を現場に反映できるように取り組んでいる。	管理者は、事業所のミーティングで職員の意見等を聞く他、個別に相談等を受けている。内容によっては、連絡ノート等によって職員全体で共有したり、管理者会議や法人の上司に繋いだり、そこで出された提案を持ち帰り職員の意見を聴くなど、現場の運営に反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎年、年2回人事考課を実施している。職員の個別面談においてそれぞれの個人目標や計画などを聞く機会を持ち、それぞれの職員の人材育成やスキルアップに繋げていけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加。研修会に参加が難しい職員にも勉強する機会がもてるように、研修DVD鑑賞や資料を見て研修報告書を書いてもらうシステムを作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐グループホーム協議会に入っており、ブロック研修会や同業者との交流に参加している。今年度は管理者が始良ブロック広報担当となり同業者への研修参加等への働きかけを行っていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前には必ず在宅や病院等に訪問し、本人の安心を確保するための関係づくりとアセスメントを実施している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に、管理者と計画作成担当者が家族との初期面談において要望や不安なことを確認し、安心して利用できるような関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が初期のアセスメントにおいて必要としている支援を見極め、本人と家族のニーズに応じたプランを作成し、個別のサービス提供を行っている。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれが出来る役割を見つけ、職員とともに生活の役割を一緒になって楽しみながら行っている。人生の先輩としての尊厳を大切にし、職員が教えてもらう機会もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には随時連絡や相談しながら本人と一緒に支えていく機会をもっている。月に1回、事業所独自の通信や最近の様子をまとめた文書を作成し家族に配布している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会はもちろん、親戚や馴染みの人と会える機会の確保に努めている。	利用者や家族からこれまで大切にしてきた人や場所を聞き、アセスメントで情報を確保している。家族や知人の面会をいつでも受け入れ、買い物や受診の機会に知人から話しかけられる時もある。その場を大切にしながら、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関係性悪化の際は必要に応じて席も調整し良好な関係が保てるよう努めている。またリビングでの団らんや集団体操、レクリエーション等で関わり合いが出来るよう支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローオン、相談や支援に努めている	退居となった際も病院へのお見舞いや亡くなられた際にはお通夜に参加するなど本人・家族に対しての関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりから希望や意向などを聞き、それらの情報については朝のミーティングで情報を共有している。	契約時に本人や家族から思いや意向を聞き、日々のケアの中で、言葉や仕草等から意向等を把握している。意思疎通が困難な場合は表情やそぶりから推し図り、また、家族からの情報を参考に、センター方式を利用して、職員間で情報を共有して本人本位の支援をしている。	
		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの暮らしの状況を聞き、馴染みの生活が継続できるよう努めている。情報の中にはセンター方式（家族版）を使用し、家族の思い、本人の生活史、元気だった頃の暮らし方などの情報把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを個別記録に残し、その中で心身の状態や個別の能力について記載している。		
25					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	介護計画とモニタリングを行う際はケア会議を開催し、現状の課題や今後の目標について話し合いを行っている。また家族や医師からの情報も踏まえて検討を行っている。	本人の意向や家族等の意見を把握した上で、ケア会議で介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回、計画の見直しは現状に即して隨時実施している。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	日々の様子や気づきや工夫については個別記録に記入し、毎朝のミーティングにおいてもそれらの情報について報告を行い情報共有の強化に努めている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	本人の思いや変化にいち早く対応し、家族からのニーズにも対応できるよう日々支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地域のボランティアの方々が来所。イベントに参加し、日々の生活と違う楽しみを持つ機会がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族の意向に沿った医師・病院を選んでいる。当事業所は医療連携体制をとっており、24時間いつでも受診できる体制となっている。また定期受診に関しては職員が受診支援を行っている。	かかりつけ医の受診支援は本人や家族の意向に沿っており、受診はホームで同行支援している。また、週1回の看護師による健康管理及び24時間医療連携体制により、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の母体の病院から週に1回看護師が訪問し、利用者の健康状態を管理している。また事業所内にも看護師がおり、病院の看護師に対して各利用者の身体の状況や相談等を行い医療面に対しての連携強化を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	○入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は管理者または計画作成担当者が訪問し、医師や看護師に情報提供を行い、情報交換・相談に努めている。医師に対して入院の期間や治療方針等の情報をいただき早期に退院が可能かどうかの判断を聞いている。早期退院が可能であれば入院中に訪問し、現状を聞きながら再入所へと繋げられるよう病院関係者との連携に努めている。		
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会で看取りについての話し合いを開催。事業所で出来る事を説明し、看取りに入る際の手順や看取りの現状等の報告を行った。今後もこの件については家族ごと個別に話し合う機会を設け検討していく必要がある。	重度化や終末期に向けた方針やあり方について、明文化されており、入居時に説明し、同意書をもらっている。家族会で看取りについて話し合っている。現在、家族と主治医の協力を得て、看取りに取り組んでいる。今後も家族と個別に段階的に話し合って、共通の理解のもと対応するようにしている。	
34	○急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	急変や事故発生においての研修等に参加している。また消防署が行っている救命救急講習会にも参加し全職員が受講できるよう計画を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員の立ち会いのもと訓練を実施している。地域との協力体制のためにも消防訓練の実施状況を運営推進会議で報告している。	消防署の指導のもと、年2回避難訓練を夜間訓練や地震・水害対策を含め実施している。地域住民の協力をもらっている。また、近隣の医療機関に協力提携を呼びかけている。災害用の水や食料は、母体医療機関で備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の行動指針「低・賞・感・微」 低：すべてに謙虚な気持ちで接する。 賞：お互いを思いやり敬意を払う 感：すべてに感謝する 微：微笑を添えて態度で示す 職員一同利用者の尊厳を大切にして行動するよう努めている。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について、法人で研修を行い、対応について理解を深めている。一人ひとりへの言葉かけやトイレの戸を閉めること、脱衣場のカーテンによる目隠し、排泄時のさりげない声かけ等、誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で会話をする時間を出来るだけ多くとるようにし、本人の思いや希望を聞き、意向に沿えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく利用者一人一人のペースを大切にし、共通のサービス（入浴などの日常生活の援助）においては必ず本人の意向を聞いたうえで行うよう支援している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日々の暮らしの中で利用者ごとの心身の能力を見極め、おしゃれをする機会や衣服を選んでもらうなどの機会を作っている。			
40 15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味見や盛り付け・片付けなどを、利用者一人ひとりの能力にあったことを見極めながら生活の役割のひとつとして実施してもらっている。	利用者の嗜好調査を行い、誕生会や行事食・外食等を大切に実施している。菜園でできた野菜を食べることも楽しみになっている。味見や盛り付け・後片づけなど、個々の力や希望によって生活の一部として楽しんでいる。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて水分・食事量をチェックし、摂取できているか把握している。状況によって主治医に報告し、点滴の指示や家族に補助食品購入の承諾をもらうなど随時対応を行っている。嚥下障害がある方に対しては形態別に提供している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員毎食後口腔ケアを行っている。職員は口腔状態を把握し、歯科受診が必要な際は家族に報告し早期対応に努めている。入れ歯の方は洗浄剤で毎日洗浄を行っている。舌苔のある方は舌ブラシでケアを行っており清潔保持に努めている。			
43 16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄チェックを行っている。一人一人の排泄パターンを把握し、声かけや誘導で利用者全員がトイレで排泄ができるよう支援を行っている。また主治医には排尿の状況を定期的に報告し、尿に異常がある時は随時指示をもらって早期対応に努めている。	利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声かけやトイレ誘導することによりトイレでの排泄を支援している。入居時は昼間リハビリパンツだったのが布パンツに改善できた等、排泄の自立に向けた支援に努めている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。食事・水分摂取状況とも照らし合わせながら、主治医の指示の下、緩下剤を使用し排便のコントロールを行っている。また腹部のマッサージを行い排便を促している。運動に関しては、個別の運動や集団体操など実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴に関してはその日の体調などを考えながら行っている。また声かけを行い、本人が入りたいという意思の確認のもと入浴をしていただくよう支援している。	週3回の入浴を基本にしているが、希望によっていつでも可能である。入浴をいやがる場合は時間を置いたり、職員を変えて気持ちよく入れるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動により覚醒を促し昼夜逆転しないよう支援を行っている。しかしその日の睡眠不足等により気分がすぐれないときは休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個別記録・服薬台帳それぞれにつづっており、いつでも見れるようにしてある。作用・副作用・用量も記載されている。頓服に関しては受診記録簿に記載し、申し送りで情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式（家族版）を使用し、本人の生活史、元気だった頃の暮らし方などの情報を把握し、日々の生活の中で、役割や楽しみ、気分転換できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物やドライブなど本人の希望にそった支援を行っている。また家族や馴染みの方が利用者と一緒に外出をしていただく協力がもらえるよう支援を行っている。	日常的には広い敷地内や近所の神社への散歩をしている。年に数回は行事での外出や受診時にドライブを兼ねたり、家族の協力により普段行かないようなところや行楽・家庭行事に参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ヤクルト販売員の来所時や外出の際、事業所で預かっているお金を本人に渡し使いたいときに使えるよう支援を行っている。また買い物に行った際も同様。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が電話をしたいときは職員が相手先に電話をかけ支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内外の設備に関しては過ごしやすいよう配慮されている。外には落葉樹もあり季節感を味わえる環境になっている。3施設がウッドデッキで繋がっており、すぐに中庭に出れるような作りとなっている。	リビングは、広くゆったりして明るい。窓から緑の木々が見える。掃除が行き届き清潔である。対面式キッチンでカウンターが長く、配膳等が使用し易い作りになっている。広いウッドデッキに出て季節を味わえるように作られて、開放的である。廊下は車いすが並んで通れる広さで、トイレも車いす対応で、居心地よく過ごせるように配慮されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	利用者の座る位置に関しては、利用者同士や利用者とスタッフで話し合い、みんなが納得いく配置になっている。一人一人が好きな時間に好きな場所でくつろげるよう、共用空間の様々な場所に椅子を用意してある。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居前に自宅で使用されていたタンスや馴染みの物を持ってきていただけるよう家族に説明を行っている。本人が着慣れた衣類や馴染みの物を持参して頂いている。	居室のベッドは備え付けである。愛用のタンスを持ち込み、写真等を飾り、衣装ケースもそれぞれが使いやすい物が置いてある。個性的で、室内は気持ちよく過ごせるように良く整頓されている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	建物内部はすべてバリアフリーとなっている。廊下は車椅子の方同士がぶつかることなく行き来できる幅となっている。すべての個室には電動ベッドが備え付けであり、利用者ごとに高さ調整し個別にあったものとなっている。		

V アウトカム項目

			1 ほぼ全ての利用者の
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目 : 36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどない

			1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		2 数日に 1 回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
			2 少しづつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない